

ニュースレポート

令和7年1月8日

報道機関各位

産業振興部 商工課

タイトル

赤穂雲火焼&赤穂緞通工房ガイドマップ完成披露会の開催について

下記のとおり報告いたしますのでよろしくお願いいたします。

行事・事業名	赤穂雲火焼&赤穂緞通工房ガイドマップ完成披露会
日時	令和7年1月16日(木) 15時30分から
場所・住所	赤穂市役所4階 市長応接室
趣旨・目的(PＲしたいこと)	
<p>このたび、赤穂雲火焼&赤穂緞通工房ガイドマップが完成し、完成品5,000部を寄贈いただきますので、下記のとおり工房ガイドマップ完成披露会を開催いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none">日時：令和7年1月16日(木) 15時30分から場所：赤穂市役所4階 市長応接室寄贈者：赤穂雲火焼及び赤穂緞通作家 桃井香子氏外寄贈内容：工房ガイドマップ5,000部 <p>※情報解禁日：令和7年1月16日 マップの原稿も添付しておりますが、1月16日までは公開をお控えください。</p>	
問い合わせ先	部課係名：産業振興部 商工課 担当者名：宍戸・木本 電話：0791-43-6838(直通) 内線(2253) FAX：0791-46-3400

添付資料 有 無 ○ホームページへの掲載 有 無 ○議会報告 有 無

赤穂雲火焼

あこうんかやき

1852(嘉永5)年、大嶋黄谷によって創り出されたと伝えられる「雲火焼」。陶土も焼成方法も明かされず、一度は「幻」となったこの焼きものを復元したのが「赤穂雲火焼」です。赤穂の夕景を思わせる幻想的な美しさが賞賛され1993(平成5)年には兵庫県伝統的工芸品に認定されました。現在も、復元に成功した桃井さん・長棟さんら2人の陶工を中心に、技術と文化が時代を超え受け継がれています。



雲火焼の特徴

釉薬(ゆうやく)を使わず、炎と煙によって黒色・朱色・象牙色を表現。そのため、赤穂の夕暮れ時の空のようなグラデーションが生まれ、一点一点異なる趣を持っています。



進化を遂げた雲火焼の新しいカタチ

「一度は世から姿を消し、「幻」となった雲火焼を未来に繋いでいきたい」。陶工・桃井香子さんが夢の一步として、私設の雲火焼展示館「桃井ミュージアム」を2011(平成23)年に開館し、現在はこのミュージアムを中心に雲火焼の魅力を発信。展示や販売だけでなく、初心者でも気軽に参加できる陶芸体験も行っており、雲火焼の世界をより身近に楽しめる場となっています。



100余年眠り続けた「幻の雲火焼」

江戸時代後期、大嶋黄谷によって完成された雲火焼。ところが、陶法は継承されることなく一代で途絶え、作品と名だけが100余年の間眠り続けました。そこで雲火焼を現代に蘇らせたのが桃井香子さんと長棟州彦さんです。

2人の陶工が20年にわたって試行錯誤する中で、特に苦労を重ねたのが「焼き方」でした。色合いが思うようにならないことや、窯の中で作品が割れることも

多々あったそうです。それでも数えきれないほどの失敗を乗り越え、当時のような鈍い光沢のある質感から唯一無二の色彩まで精巧に再現されています。

雲火焼の祖・大嶋黄谷が残した「幻の雲火焼」の粋を超え、雲火焼特有の美しさや軽さ、手触りの良さを活かして日常使いできる器やアクセサリーなどの新たなジャンルにも積極的に挑戦しています。また、最近では雲火焼の技法をもとに、夕焼け空を描いた絵画の様な「雲火焼の陶板絵」を制作し新たなアート作品も多数生み出しています。「桃井ミュージアム」館内のカフェでは、雲火焼の器でコーヒーやお抹茶を飲んで頂きホッと一息つける癒しの空間を提供しています。今後も赤穂を訪れる方に、赤穂の伝統工芸・赤穂雲火焼の魅力を伝え続けていくことでしよう。





雲火焼と赤穂緞通のミュージアム&カフェ
桃井ミュージアム

■ 赤穂の伝統工芸に触れる工房ギャラリー

瀬戸内海を臨む赤穂御崎の高台にある「桃井ミュージアム」では、兵庫県伝統的工芸品「赤穂雲火焼」「赤穂緞通」を展示販売しています。館内にはアンテナショップのほか、水琴窟庭園と瀬戸内海の絶景を眺めながら一息つけるカフェスペースや、ペット同伴可能なオープンテラスがあります。



ガーデンには、恋人の聖地・赤穂御崎を訪れたカップルに人気の「天使のブランコ」や「縁結びの松」、絶景展望台に渡る「御崎のつり橋」などもあります。

すいきんくつ
 ■ 心を癒やす水琴窟



広大な庭園には10を超える水琴窟(すいきんくつ)があります。伏瓶(ふせがめ)に流れ落ちて反響した水滴音は、琴のように清らかで神秘的。「足湯水琴窟」や「巨大石臼の水琴窟」など、個性豊かなものがそろいます。



雲火焼

雲火焼
 アンテナショップ

桃井香子さんと長棟州彦さんの2人の陶工が作った雲火焼の美術品から日常使いできる器までを販売。ハズレなしの「雲火焼ガチャ」も好評です。

雲火焼陶芸体験

手びねりで雲火焼の葉皿を作る陶芸体験を常時受け付け。世界に一つしかない自分だけの雲火焼を制作することができます。

【時間】40分程度

【料金】3,850円/人(別途送料600円必要)

【予約】3日前までに電話で申し込みを



赤穂緞通

赤穂緞通
 アンテナショップ

工房の枠を超えた複数の赤穂緞通作家の作品を展示販売しています。一畳敷きを中心に、古緞通から現代的な緞通まで取りそろえています。

赤穂緞通展示作家

井関京子(緞通小屋 みさき)、鍛冶美恵(鍛冶製作所)、菊田知恵子(赤穂緞通を伝承する会 花工房)、小林由美子、根来節子・廣津真由(弥生工房)、廣畑富美子(すみれ工房)、見並なおこ(工房 結・ゆう-)、宮本理絵(緞通工房 花鳥風月)、山崎伸子(伸子工房)、山下眞理子(おさき工房)

見学 ○ 体験 雲火焼のみ ※要予約

桃井ミュージアム

📍 赤穂市御崎634 ☎ 0791-56-9933 🚗 あり 🚻 あり

🕒 9:00~最終入館16:00(完全退館16:40) 📅 火曜日(祝・祭日の場合は翌日)

💰 入館時、館内で使える金券(500円分/人)を要購入 ※身障者・小中学生は200円

HP



赤穂緞通

あこうだんつう

明治時代初期、児島なかという一人の女性の手により誕生した赤穂緞通は、佐賀県の「鍋島緞通」、大阪府の「堺緞通」と共に、「日本三緞通」と称されています。中でも赤穂緞通は、握り鉢一つで3種類の「摘み」、技法を用いることが最大の特徴で、文様の輪郭が際立つ美しさと滑らかな手触りが魅力です。



赤穂緞通の歴史



江戸時代末期、赤穂に住んでいた児島なかは、旅先で中国の「万暦氈(ばんれきせん)」と出合ったことをきっかけに誕生しました。彼女は20

年余りもの長い歳月をかけて研究を重ね、1874(明治7)年について商品化に成功。赤穂緞通を初めて世に送り出しました。

最盛期となる明治末期～昭和初期には、市域にあった4～6軒の織元で製作されていましたが、1938(昭和13)年、日中戦争に伴う綿糸不足の影響で全ての織元が閉鎖を余儀なくされました。戦後操業を再開した「西田緞通」も1991(平成3)年に存続が困難となり、赤穂緞通は世から姿を消す危機を迎えることになりました。

江戸時代 末期

児島なか、赤穂緞通製造への模索を開始する

明治時代 初期

20年余りの長い歳月をかけ、明治7年に商品化を実現。ここから昭和13年までに徐々に織元を増やしていき、赤穂緞通の最盛期を迎える

昭和時代 前期

昭和13年、日中戦争に伴う綿糸統制により原材料の入手が困難に。全ての織元が閉鎖

平成時代 初期

平成3年、終戦後に再開した最後の織元「西田緞通」も閉鎖

守り継いできた技術までは途絶えさせないようにと、1991(平成3)年、赤穂市教育委員会が「赤穂緞通織り方技法講習会」を開講し、1999(平成11)年には修了者22名によって「赤穂緞通を伝承する会」を結成。こうして赤穂緞通は息を吹き返しました。

現在は、市内外合わせて約20軒の工房があり、赤穂緞通の伝統は赤穂だけにとどまらず全国に受け継がれています。

赤穂緞通の特徴



赤穂緞通は、握り鉢で文様の輪郭に沿うように切込みを入れて溝を作る「筋摘み」によって生まれる、独特の立体感が特徴です。さらに、厚みを均一にする「地摘み」や最終工程の「仕上げ摘み」など、3種類の「摘みの技法」、を用いることで、はっきりとした文様と型崩れしにくく丈夫な仕上がりを実現しています。

また、驚くほど滑らかな表面とは対照的に、裏面は麻のようにサラリとした感触を持つため、表裏で全く異なる風合いを楽しめるのも魅力です。

1.「弥生工房」蔵の古緞通

2.1931(昭和6)年5月に新浜村紀の国に創業した赤穂緞通製作所発行のパンフレットからの抜粋、画像提供/赤穂市立歴史博物館

3.A「赤穂緞通」、B「堺緞通」、C「鍋島緞通」 4.耳巻きの工程 5.摘みの工程

後継者育成



1991(平成3)年、赤穂市教育委員会が「赤穂緞通織り方技法講習会」を開講したことをきっかけに、衰退した赤穂緞通が復活を遂げ、現在も技術が継承され続けています。

特に、赤穂緞通の後継者育成に積極的に取り組んでいるのが、「赤穂緞通織り方技法講習会」を修了した1期生によって設立された特定非営利活動法人「赤穂緞通を伝承する会」。この会は「技術・研修工房つむぐ」を通じて随時研修生を募り、修了者が講師となって「機こしらえ」から「仕上げ」までの技術を丁寧に指導しています。

● NPO法人 赤穂緞通を伝承する会 緞通工房 ～波 nami～



赤穂緞通の技術保存や継承を目的とするNPO「赤穂緞通を伝承する会」が、2025年度内に開所を予定している工房。「技術・研修工房つむぐ」を修了したプロの織り子の手さばきを見学したり、古緞通を見ながらお茶を楽しんだりすることができます。

見学 ○ 土・日・月曜日
※他の曜日は要予約

体験 ×

📍 赤穂市尾崎300番地

🚗 あり(2台)

🕒 11:00～17:00 ☎️ 0791-43-1820

Instagram



見学 ○ 体験 ○ 要予約

● A 赤穂緞通技術・研修工房 つむぐ

HP



赤穂緞通後継者育成の拠点「技術・研修工房つむぐ」は、JR播州赤穂駅から徒歩圏内にあり、観光客も気軽に訪れやすい工房です。市内最大数を誇る6台の織り機を設置。研修生と講師が常駐しているため、いつでも研修の様子を見学したり、「挟せ(織り)」や「摘み」のデモンストレーションを間近で見たりすることができます。

また、小型のはた織り機を使った体験も随時受け付け(※要予約)。小学生から参加可能で、約10cm四方の作品を一日かけて織り上げます。



📍 赤穂市加里屋2073-4 🚗 あり 🚻 あり 🕒 10:00～16:00 📅 火曜日・年末年始 ☎️ 0791-45-0606 ※体験は小学生から参加可能。

見学 ○ 体験 ○ 要予約

B 弥生工房 集い

Instagram



作家活動はもちろん、赤穂緞通を次世代につなぐ架け橋も担う「弥生工房 集い」。九州に工房を構える「纈月」など、過去に2名の修了生を輩出。現在も1名の研修生がここで学んでいます。

1階にある工房のほか、2階の日本三緞通と古緞通のギャラリーでは、古緞通を見たり触れたりしながら、緞通の奥深い世界をのぞき見ることができます。工房では、10cm四方の作品を3日間かけて作り上げる体験(※要予約)も受け付け。スケジュールに柔軟に対応してもらえますので、予約時に相談をしてください。



📍 赤穂市新田519 🚗 あり 🚻 あり ☎️ 0791-45-0025 ※工房前の道路が幅員狭小のため、軽自動車での来訪を推奨。播州赤穂駅からの送迎あり。



見学 ○ 要予約 体験 ×

C 赤穂緞通工房ギャラリー 東浜

HP



「赤穂緞通工房ギャラリー東浜」では糸作りからこだわり、繊細な文様や独特の色合いを表現しています。一畳敷きは「美術品」としての価値を追求し、和との調和やアートとしての楽しみ方を提案。その反面、日常でも親んでほしいとの思いで、赤穂緞通の文様を使った雑貨なども販売しています。

「和洋折衷」をテーマにしたギャラリーでは、作品の購入はもちろん、実際に緞通を織っている様子も見学も可能。赤穂緞通の魅力を五感で感じてみませんか？



📍 赤穂市東浜町69 🚗 あり 🚻 あり 🕒 9:00~18:00 ☎️ 0791-25-1395 ※見学の場合は3日前までに予約を。



見学 要予約 体験 要予約

D アトリエARTISAN 羊の樹

大きな窓から日が差すおしゃれな空間に、多彩な緞通の作品が展示されています。希望者には見学と作業工程の一部を90分で気軽に体験できるものや、数日かけて小作品を制作するお稽古を実施。もっと深く学びたいという人には継続的な指導も可能です。

HP



📍 赤穂市尾崎3109-1 🚗 あり 🚻 あり
※お問い合わせは公式HP掲載のLINEから。



見学 要予約 体験 なし

E 赤穂緞通 六月

Instagram



年月の経過による風合いの変化を魅力と捉え作品を制作する「赤穂緞通 六月」。藍染や草木染めなど、天然染料の糸のみを使用するのがこだわりの一つです。日本だけでなく、海外でも展示会を開催し、世界にもその名を広く知らせています。

📍 赤穂市御崎107 🚗 なし(※近隣の観光駐車場の利用を) 🚻 あり
※お問い合わせは公式InstagramのDMから。 ※工房改装中のため、2025年春から見学OK。



見学 要予約 体験 なし

F 工房 たまゆら

「織り機や手織りの技術に親しんでもらいたい」と、工房を営む花房さん。織物ワークショップでは、初心者への第一歩をサポートしています。織物への興味が深まれば赤穂緞通の制作にも挑戦することができ、伝統技術を学ぶことができます。

Instagram



📍 赤穂市加里屋2009-1 🚗 あり 🚻 あり ☎️ 090-9872-7274
※見学は水・木・金曜日のみ。体験希望の方はまずは織物ワークショップに参加を。



見学 要予約 体験 なし

G 坂越緞通工房

山の中にたたずむ「坂越緞通工房」。豊かな自然に囲まれた工房で作品づくりを行う柳田さんは「ここにしかない色彩の作品を作りたい」と語ります。糸の染色方法や配色など、「色」にこだわった美しい緞通の制作過程を見学できます。

📍 赤穂市坂越3016 🚗 あり 🚻 あり ☎️ 0791-48-8937



見学 ○要予約 体験 ×

H 花鳥風月

宮本さんは以前勤めていた会社のプロジェクトで緞通を知り、約5年にわたって技術を学び、自宅の一角に工房を設立。納得がいくまで作品と向き合う姿勢を大切にしています。伝統的なデザインを大切にしたい美しい作品を次々と生み出し、作品展での入選歴もあります。

Instagram



赤穂市板屋町 車あり WCあり
※お問い合わせは、公式InstagramのDMから。



上郡



見学 ○要予約 体験 ○要予約

工房 結-ゆう-

Instagram



伝統を守りつつ独自の風合いを持つ『新赤穂手織り絨毯』や『結緞通』などオリジナルの織物を考案。現代の暮らしに溶け込む作品が魅力で「兵庫県ふるさと文化賞」などを受賞しています。植物の山藤から糸作りを行い『藤緞通』の復元にも成功しています。

赤穂郡上郡町高山 車あり WCあり
※お問い合わせは、公式InstagramのDMから。



たつの

見学 ○要予約 体験 △

赤穂緞通 たつの工房 ぎおん

HP



「赤穂緞通の伝統的な技術を広く知ってもらいたい」と、たつの市内のカフェなどで手織りワークショップを行っている「ぎおん」。緞通と同じ織り方で、自分でデザインした作品を制作できます。また、古い緞通の修復も行い、文化財としての価値を高めています。

たつの市龍野町島田 車あり WCなし
※お問い合わせは、HPのお問合せフォームか、公式InstagramのDMから。



・その他観光お役立ち情報はこちらから

赤穂市立歴史博物館

赤穂の塩・赤穂の城と城下町・赤穂義士・旧赤穂上水道の4つのテーマに沿った歴史資料を展示している博物館。



赤穂市立美術工芸館 田淵記念館

塩問屋などを営んでいた田淵家より寄贈の茶道具・婚礼道具・藩主もてなしの道具などの美術工芸品を展示。

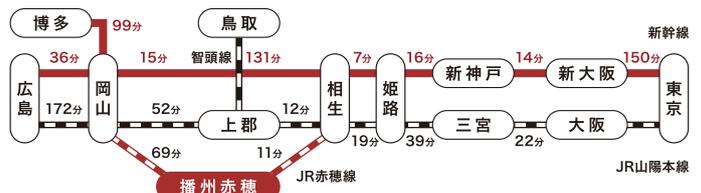


一般社団法人 赤穂観光協会

JR播州赤穂駅の構内にある赤穂市観光の拠点。名所・旧跡などの見所や宿泊施設、土産物などの観光情報を発信。



・赤穂市へのアクセス



- 大阪から
車で約1時間30分
電車で約1時間30分
- 岡山から
車で約1時間
電車で約1時間10分
- 広島から
車で約2時間40分
電車で約1時間40分

発行元

赤穂市産業振興部商工課 8時30分～17時15分 ※土日祝除く

兵庫県赤穂市加里屋81番地
TEL:0791-43-6838 / FAX:0791-46-3400

※掲載している情報は、2024年12月1日時点の情報です。最新情報や営業日、体験内容については各工房へお問い合わせください。※各工房の見学・体験は少人数でご参加ください。

表紙赤穂緞通写真:赤穂緞通 唐花に蔓草文・縁雷文(御察・部分)、画像提供/赤穂市立歴史博物館
表紙赤穂雲火焼写真:赤穂雲火焼 長棟州彦 作「葉皿」